# 再評価結果(平成29年度事業継続箇所)

<u>担 当 課:都市局 街路交通施設課</u> <u>道路局 高速道路課</u> 担当課長名:渡邉 浩司 伊勢田 敏

#### 事業概要

高速横浜環状北西線は、第三京浜道路と東名高速道路を結ぶ延長7.1kmの路線であり、横浜北線(横羽線~第三京浜)と-体となり、東名高速道路と横浜港を直結することで、国際競争力向上や首都圏南部の防災力強化を図る重要な役割を担う。

H24年度事業化 H22年			年度都市計画決定		H24年度用地着手		H24年度工事着手		
全体事業費	 	2, 480億円	事業進捗率	1	27%	供用済延	長	 	0km
計画交通量 44,700台/日									
費用対効果	в/с	総	費用 (残事業)/(事	業全体)	総便益(歿	事業)/(事	業全体)	基準年	
分析結果	(事業全体)		1, 826/2,	580億円		4, 216/4,	216億円	平成28:	年
	1. 6	6   [ =	事業費:1,451/2,	205億円	走行時間短縮便:	益:3,540/3	, 540億円		
	(残事業)		<b>推持管理費: 375/</b>	375億円	   走行経費減少便	益: 424/	424億円		
	2. 3	3		J	交通事故減少便	益: 252/	252億円		

#### 感度分析の結果

【事業全体】交通量 : B/C=1.4~1.8 (交通量 ±10%)

事業費 : B/C=1.5~1.7 (事業費 ±10%) 事業期間: B/C=1.6~1.7 (事業期間±1年) 【残事業】交通量 : B/C=2.0~2.6 (交通量 ±10%)

事業費 : B/C=2.1~2.5 (事業費 ±10%) 事業期間: B/C=2.2~2.4 (事業期間±1年)

#### 事業の効果等

- ①円滑なモビリティの確保/物流効率化の支援
  - ・東名高速道路と羽田空港・横浜港との連携強化、並行する保土ヶ谷バイパスの混雑緩和
- ②災害への備え
- ・緊急輸送道路である一般道路(保土ヶ谷バイパス等)及び高速ネットワーク(東名高速道路等)の代替路線として機能 ③生活環境の改善・保全
  - ・沿線地域の生活道路からの大型車通過交通の転換及び混雑緩和に伴う大気環境の改善

## 関係する地方公共団体等の意見

神奈川県知事の意見:高速横浜環状北西線は、今年3月に開通する横浜北線と一体となって、我が国の大動脈である東名高速 道路と、横浜港や羽田空港をはじめ、経済産業活動の拠点である京浜臨海部を結び、自動車専用道路ネットワークを強化する 大変重要な路線である。

国家戦略特区をはじめとする3つの特区の活用などにより、経済の一層の活性化に取り組んでいる本県において、生産性の向上や観光振興を支える交通基盤として、また、災害への対応力を強化する基盤としても、高速横浜環状北西線については、引き続き効率的な整備を促進し、一日も早い供用を図るようお願いしたい。

横浜市長の意見:高速横浜環状北西線は、平成29年3月に開通する横浜北線と一体となることで、横浜港の国際競争力の強化 や本市経済の活性化などが期待されます。

東京2020オリンピック・パラリンピックまでの開通を目指して、引き続き事業の推進をよろしくお願いします。

## 事業評価監視委員会の意見

対応方針については原案通り「事業継続」で了承。

# 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

横浜北線(横羽線~第三京浜)が平成29年3月に開通。

また、平成32年オリンピック・パラリンピック競技大会の開催地が東京に決定(平成25年9月)し、好調なインバウンド増加とあわせて、首都圏のみならず日本の経済活性化の期待が高まってきている。

#### 事業の進捗状況、残事業の内容等

高架部において下部・基礎工事等を施工中。

トンネル部において発進立坑工事が完成、シールドマシンを立坑内にて組立て中。

# 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

平成32年東京オリンピック・パラリンピック迄の開通を目指す。

# 施設の構造や工法の変更等

・地盤条件の変更に伴い高架部において基礎構造及び仮設工を変更

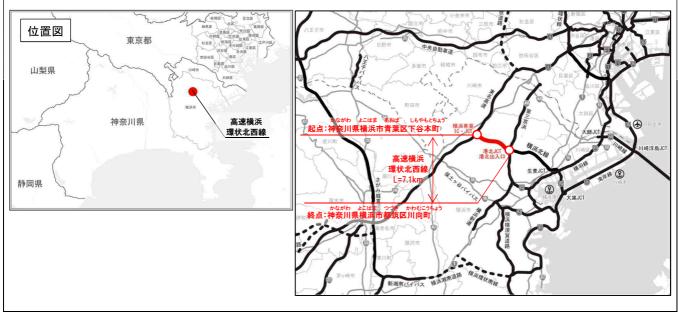
## 対応方針

事業継続

#### 対応方針の決定理由

以上の事業の効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと 考えられる。

### 事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。